

### 13. 日本海沿岸東北自動車道の整備促進について

北信越部会提出  
説明担当 新発田市

日本海沿岸東北自動車道は、日本海側を縦貫する国土軸を形成する重要な路線であり、北陸、関越自動車道、東北縦貫自動車道と連携し、広域交流の促進はもとより、地域の個性を活かした新しい文化の創造と企業誘致、観光産業の振興など地域経済の発展に大きく寄与するものであります。

当路線は並行する一般国道7号等の交通混雑の緩和や新潟都市圏と県北地域との経済交流等による地域活性化を図る重要な路線であるとともに、県北地域の救命救急医療や災害時の支援物資の輸送に重要な役割を担う「命の道」でもあります。

これまで従来の有料道路方式で整備が進められた新潟中央JCT～荒川胎内ICまでに引き続き、新直轄方式で整備を進めてきた朝日まほろばICまでが平成22年度中に供用開始され、これにより整備計画区間については全線完了しました。

しかし、その先の新潟・山形県境区間である朝日まほろばIC～温海IC間については、平成23年度に計画段階評価を実施したものの、工事着手の目途は立っていないという段階にあります。

高速道路はネットワーク化されて始めて最大の効果を発揮するものであり、その整備に当たっては、短期的な経済効率性や採算性の視点からだけでなく、国づくり、地域づくりに果たす役割・必要性など十分に考慮し、長期的な視野にたって整備していくことが重要であります。

また、この度の東日本大震災では、港湾をはじめとする社会資本整備が太平洋側に偏り、東北地方における災害時のリスク分散や代替機能の確保が不十分であることが顕在化しました。そのため、今後は日本海側の物流機能の重要性を認識し、バランスの取れた社会資本の整備が必要であると考えます。

迅速な物流輸送や安定した物流を確保するために、日本海側の基幹交通ネットワークの確立が急務となっております。日本海側と太平洋側の国土軸均等に整備することにより、両者の補完体制も整い、災害に強い国土の形成、更には強固な経済基盤を構築するものと考えます。

このようなことから、県北地域にとって必要不可欠である高速自動車道について、下記のとおり整備促進を図られるよう強く要望いたします。

#### 記

- 1 新潟・山形県境部の「朝日まほろばIC～温海IC間」において、新規事業化を早期に実現すること。